

## 活動報告

## パパPTの育児休業をインタビュー

会員ライフサポート部 (萩原・寺尾)

会員ライフサポート部  
活動報告  
職場環境を考える

第42報

今回、会員ライフサポート部では、パパPTが育児休業を取得したとの情報を聞きつけまして、インタビューに行ってみてまいりました。「イクメン」という言葉はしっかり浸透していますが、世の中の男性の育児休業取得率は、いまだに1%台と少ないのが現実です。育児休業を取得しなくてもイクメンにはなれます。しかし、誰もが（男女関係なく）家庭の事情などで長期休暇が取得できる職場環境というのは、働きやすい環境として重要な要素ではないでしょうか。

というわけで、今回のインタビューが、育児休業の取得にまつわることと、職場環境について考えるひとつのきっかけになれば幸いです。

## ■はじめに…

インタビュー先は、理学療法士20名程度の民間の急性期病院です。現在は、育児休業取得中のPTが1名、産休中のOTが1名とのことでした。それぞれに非常勤が1名ずつ勤務しているとのことです。

## ■育児休業取得経験のあるパパPTに聞いてみました

## ・育児休暇の取得はいつから考えていましたか？

「もう1年以上前のことで曖昧になってきましたが、次男の出産予定日の1～3か月くらい前だったと思います。育児休業のことは、長男が生まれた時に父親も取得できることを知りました。長男の面倒もみながら、産後に次男もみるというのは、両親の助けをお願いしたとしても無理があると思っていました。」

## ・誰と相談して決めましたか？ いつ頃相談しましたか？

「1～3か月前に、妻、職場の上司、その時同じ部署で働く同僚に相談したような気がします。」

## ・相談した時の反応はどうでしたか？

「妻は嬉しそうでした。職場の反応はよくつかめない感じでした。特に反対はされませんでした。」

## ・育児休暇の期間は？長かったですか？短かったですか？

「1年くらい前でしたが、産後6週間くらいだったと思います。短かったですね。」

## ・育児休暇をとってみてどうでしたか？

「よかったのは、長男と長く過ごせて、次男の成長をしっかり見ることができたことです。意外と大変だったのが、長男のかんしゃくでした。私は主に長男を面倒見ていたのですが、母親が次男をみていたので、長男が次男に母親を取られたと思って、やきもちがひどかったです。でも、育休のおかげで、これまでよりももっと親になれた気がしました。

仕事のことは、家でできるような学術的なことのみしていました。臨床は、同僚がしっかりしているので、特に気になりませんでした。仕事復帰も違和感なくできました。他のスタッフにも、子供の成長をみれる貴重な時間ですので、育児休業の取得はお勧めです。」

## ■同僚の方たちに聞いてみました

・「育児休業の取得自体は本人にとっていいことだと思いますし、許可してもらえることはいいことだと思っていました。自分の夫になる人も家族のことを考えて行動してくれる人だといいなと思うし、自分も育休をとるぞ！と思いました。ただ、同部署で働いているスタッフは休みも取りにくく大変そうでした。もう少し他部署からフォローできる体制がとればいいなと感じながらも、どうすることもできませんでした。」

・「最初は育休を取れるような職場は素敵だと思い、頑張っていました。だんだん、疲れてきました。応援をうまく頼みず、自分で乗り切らなきゃいけないと思い、本当に大変になってしまいました。応援が頼みやすい、応援に行きやすい体制が作れないと続けられないなと感じました。」

・「そういえば現在ママPTはいません。育児しながらじゃ大変だと心の奥底で感じていたし、具体的にどうやって乗り切れるのかは想像も、準備もしていませんでした。ところが、パパの育児休業なんて関心もなさそうだった同僚は、ちゃんとパパで、仕事のことだけでなく家族のことも考えていると改めて認識しました。これからはこういった選択肢も「あり」だとこの職場にやっとな示せたような気がします。あとは、それを遠慮しすぎることなく取得できるようなフォローの方法を考えていくことと、後に続く人がいることが大事だと思います。幸い今は続いてくれている人がいます。今回、インタビューしてもらって周囲の負担も改めて知り、休暇中のフォロー体制を、みんなと考えていかなければいけないと思いました。」

## ■上司の方 (PT) にも聞いてみました

## ・相談を受けた時どう思いましたか？

「理学療法士は、小児から高齢者まで、さまざまな世代を対象とします。ですから自己経験に基づく考察も有用であると思います。育児・介護休暇は「今しか経験できない事」ですので、積極的にかかわることがよいと思いました。」

・育児休業を取得する人が出て来たら、考えが変わった



こと、よかったこと、困ったことなどありますか？

「長期休業を取得する人が出てくることによって、介護休業を取るベテランのフォローは中堅が、育児休業を取る中堅のフォローは若手など、フォローする側の責任感や自覚など成長促進にもつながっていると思います。困るとすれば、出来高の減収でしょうか。6週間など期間限定の年度途中の休業の補充はできませんでしたが、週2日ではありますが1年間のアルバイトをお願いすることができました。アルバイトなどで補充するなど、職場や士会のバックアップ体制の整備が必要です。」

・これからの人に要望や伝えたいこと（心構えも含めて）はありますか？

「PTとして定年を迎える人も増加すると思います。各個人のライフサイクルに合わせて、『結婚→育児→介護→定年』は、その時々で経験するべきものです。遠慮せずに順番に取得すれば『持ちつ持たれつ』の職場環境が整うと思います。」

#### ■最後に…

いろいろな人からお話を聞くことができました。ご協力に感謝いたします。

これまでは、育児休業をとることなく、やめてしまったスタッフも少なくないとも聞きました。職場環境に課題がないわけではありません。しかし、このように前例ができれば、続いていく人も増え、それが当たり前な環境になり、働きやすい職場について考えるきっかけになることでしょう。社会環境のバックアップもまだまだ不十分です。今回インタビューに応じていただいたパパPTの奥様は、保育園の空きがなく復職したいのにできていないとのことでした。それでも、安倍総理が「女性の力を経済成長のカギに」と言っていたように、社会の動きを味方につけ、理学療法士の世界も業務の内容、環境ともいい方向に進むよう、私たちは理想を高く取り組んでいきたいと心新にしました。



月	日	内容	場所
8月	1日(木)	常任理事会、会務処理	事務所
	6日(火)	会務処理	事務所
	20日(火)	会務処理	事務所
	20日(火)	49回学会準備委員会、会務処理	事務所
	27日(火)	第2回理事会、会務処理	事務所
	31日(土)	協会選挙制度検討特別委員会	田町カンファレンスセンター
9月	2日(月)	会務処理	事務所
	4日(水)	会務処理	事務所
	4日(水)	県医療専門職連合会理事会	放射線技師会事務所
	10日(火)	常任理事会、会務処理	事務所
	15日(日)	関東甲信越ブロック協議会士会長会議	大宮ソニックシティ
	15日(日)	埼玉県士会公益社団法人移行祝賀会	大宮
	23日(月)	協会選挙制度検討特別委員会	田町カンファレンスセンター
	24日(火)	第4回事業運営会議、会務処理	事務所
	26日(木)	49回学会準備委員会	事務所
	28日(土)	役員研修会、懇親会	事務所